

令和5年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 佐賀市（都道府県：佐賀県）

1. 当該地域の情報（令和5年12月現在）

地域の課題	・平成25年頃から本市、特に久保泉・春日地区に技能実習生の転入が増加 ①タガログ・ベトナム語のごみ看板設置（H29）、②技能実習生が校区の祭りへ参加（H30）、③技能実習生を講師にベトナム料理交流会開催（R1）、と地域の住民と在住外国人とのつながりができつつある時、新型コロナウイルス感染拡大で、交流が全て停止された。その後、地域で在住外国人と日本人とが直接交流する機会が減った。 ・「地域住民全体でのまちづくり」における在住外国人の存在の認識、外国人自身の参画支援の必要性 本市は「佐賀市総合計画」「佐賀市まちづくり自治基本条例」に基づき、安心して暮らし続けることができる地域社会の実現を目指している。そのまちづくりに在住外国人も含めて地域の力にする仕組みづくりが必要である。 特に近年台風や集中豪雨による土砂崩れ、河川の氾濫、内水の被害が発生し、平常時からの備えを呼びかけており、在住外国人も日本人住民と同様、自分の安全を確保しつつ、他の住民の支援に関われる「自助・共助」の姿勢の定着が急務である。
在住外国人数 外国人比率	在住外国人数 佐賀市：2,513人（久保泉校区 81人、春日校区 171人） 外国人比率 佐賀市：1.10%（久保泉校区 2.24%、春日校区 1.96%）
在住外国人の状況	【主な国籍】 ・佐賀市 2,513：ベトナム 422、中国 372、フィリピン 302、ネパール 294、インドネシア 284、韓国 219、ミャンマー176、バングラディシュ 69、カンボジア 40、アメリカ合衆国 40、スリランカ 40 ・久保泉校区 81：ベトナム 34、フィリピン 24、インドネシア 10、韓国 4、朝鮮 3、ウズベキスタン 3、オーストラリア 1、ミャンマー1、中国 1 ・春日校区 171：ベトナム 91、フィリピン 40、中国 10、インドネシア 10、ミャンマー6、韓国 4、ネパール 3、インド 2、ブラジル 1、スリランカ 1、朝鮮 1、マレーシア 1、ニュージーランド 1 【在留資格】 ・佐賀市 2,513：留学 531、技能実習 511、永住者 396、特定技能 238、家族滞在 202、技・人・国 156、特別永住 133、日配 89、定住者 55、介護 53 ・久保泉校区 81：技能実習 2号口 27、技能実習 1号口 22、技能実習 3号口 17、特別永住 6、特定技能 1号 6、日配 2、永住 1 ・春日校区 171：技能実習 2号口 41、特定技能 1号 37、技能実習 1号口 34、永住 13、技能実習 3号口 10、技・人・国 10、日配 5、介護 4、特定活動 4、家族滞在 4、特別永住 3、技能 3、留学 3 【滞在年数・在留期間などの状況】 ・留学、技能実習生が500人を超え、永住者、特定技能など活動に基づく在留資格保有者が全体の3分の2に至り、在留期間が2年～5年程度で回転している。 ・現在ネパール、ミャンマーの留学生、インドネシアの技能実習生が増加している。 ・春日は以前、技能実習生が8割だったが、特定技能も増え、滞在の長期化も見られる。

在住外国人の 日本語教育の現 状	・「初級日本語集中講座」（市国際交流協会・佐賀県日本語学習支援カスタネット共催） 有資格講師による日本語ゼロレベルから学習できる集中講座（36 時間）を年 3 回開催（受講テキスト代 500 円）。講座を修了した学習者が地域日本語教室で継続して学習できる連携体制をとっている。 ・ボランティアによる地域日本語教室 市中心地に「県国際交流プラザ」（管理者（公財）佐賀県国際交流協会）があり、そこで 6 団体が月 2-4 回活動している。有資格者も多く、コロナ禍からオンライン対応もする。 ・日本語指導が必要な児童・生徒への支援 県国際交流協会（子ども日本語学習サポーター事業）と市教育委員会による日本語指導担当教員の配置校での受け入れ、未配置校への巡回を行い、個別の指導計画に基づき加配措置をする。また、佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会（さが わーるどりんぐ）が年 3 回の交流会や毎週 1 回の放課後学習会を実施し、相談も受け付ける。 ・留学生向け日本語学習 佐賀大学、佐賀女子短期大学、西九州大学・西九州大学短期大学部の留学生が学内で日本語を学習。 ・日本語専門学校について 令和 4 年 6 月「佐賀ランゲージセンター」（株式会社ジャパンランゲージ）が開校し、進学のための日本語専門コースに 1 0 0 名を超える留学生が学習中。
------------------------	---

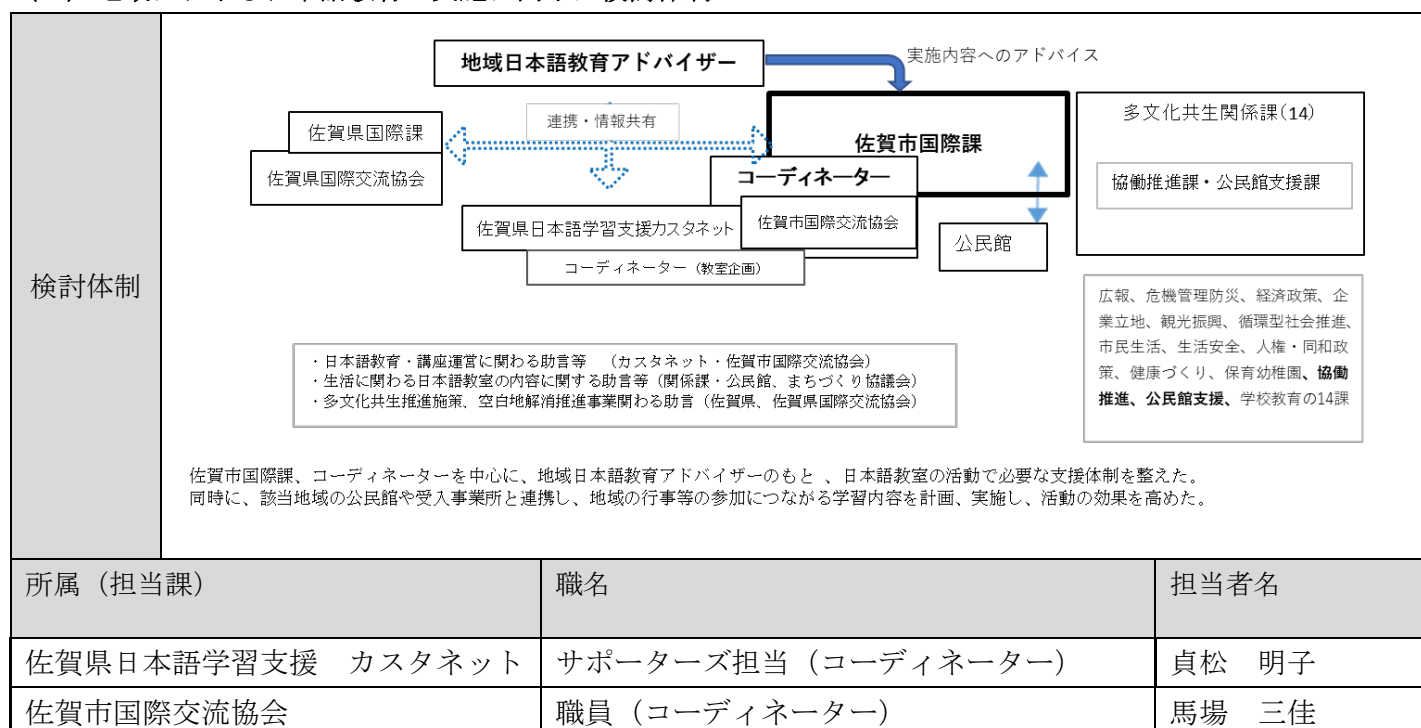
2. 事業の内容

本プログラム取 組年数	2 年目
事業の目的	・在住外国人が日本語を学び、学校・職場そして地域において円滑にコミュニケーションを図り生活することができる。 ・市民が日本語教室を交流の場として活動し、多様な価値観を理解し、互いにつながる環境を整備する。
事業の概要	・本市郊外の久保泉校区・春日校区の在住外国人を対象とした日本語教室を開設する。 ・地域住民との交流活動を多く取り入れることで、顔見知りの関係づくりや住みやすさの向上を図り、地域の多文化共生を推進する。 ・教室の内容を生活に必要な項目や地域の理解につながるように計画する。
事業の対象期間	令和 5 年 5 月～令和 6 年 3 月
前年度の実績 （2 年目以降の 団体のみ記載）	・事業所を通じて日本語学習のニーズを調査し、日本語学習の現状を具体的に把握した。 ・在住外国人も、事業所も日本語学習支援を希望していることを把握した。 ・受入事業所の担当者と繋がりができ、外国人へのイベント等の案内が可能になった。 ・事業内容や調査内容を地域のキーパーソンへ説明し、活動への理解・支援を促した。 ・公民館で「やさしい日本語講座」を実施し、住民と在住外国人との交流の機会を作った。

	氏名	所属	職名	担当する役割
担当コーディネーター	貞松 明子	①佐賀県日本語学習支援カスタネット ②佐賀大学 ③佐賀女子短期大学	①サポーターズ担当 ②③非常勤講師	日本語教育の指導者等の人材育成、研修企画・実施 日本語教室のカリキュラム、教材作成、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発
	馬場 三佳	①佐賀市国際交流協会 ②佐賀県日本語学習支援カスタネット ③西九州大学短期大学部	①職員 ②事務局担当 ③非常勤講師	検討体制メンバー・実施協力団体（兼務）研修企画・実施、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発
	吉原 千恵美	地域日本語教室にほんごすいもく	講師	日本語教育の指導者等の人材育成、研修企画・実施 日本語教室のカリキュラム、教材作成、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発
	藤瀬 利恵子	地域日本語教室にほんごすいもく	講師	日本語教室のカリキュラム、教材作成、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発、参加の呼びかけ
	野正 理恵	佐賀県 地域交流部 国際課	職員	日本語教室のカリキュラム、教材作成、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発、教室活動の広報、佐賀県事業との連携支援
	宮副 千代子	佐賀市総務部国際課 多文化共生係	主事	事業全体の連絡・調整等事務全般
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	松永典子	九州大学	教授	継続（２年目）
	山田智久	西南学院大学	教授	継続（２年目）
	御館久里恵	鳥取大学	教授	継続（２年目）

３．日本語教室の設置に向けた検討体制

（１）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



令和5年 6月	・コーディネーター会議 (15日)	久保泉・春日校区の年間行事を取り入れた教室年間計画（案）作成	
令和5年 7月	・文化庁スタートアップオリエンテーション (19日) ・アドバイザー会議① キックオフ会議 (26日) ・コーディネーター会議 (久保泉担当／春日担当) (6日、27日)	・公民館館長・担当者への事業趣旨説明 (5日、14日、24日) ・地域行事予定・設備等の確認 ・教室活動の計画・広報資料作成	松永先生1回 (オンライン) 山田先生1回 (オンライン) 御館先生1回 (オンライン)
令和5年 8月	・コーディネーター会議 (久保泉／春日) (1日、4日) - 地域への活動開始案内 ・春日校区単位自治会長へ「やさしい日本語」研修会案内 (8日) ・久保泉校区まちづくり協議会へ教室開催案内等広報 (19日) ・コーディネーター会議 (24日、29日)	・監理団体との日本語研修・教室に係る意見交換／ニーズ調査 (3日) ・春日自治会役員会事業説明 (8日) ・久保泉まちづくり協議会役員会参加 (19日)	
令和5年 9月	・春日 教室試行① (3日) ・久保泉 教室試行① (9日) ・アドバイザー会議② (20日) ・コーディネーター会議 (22日) ・技能実習生受入事業所訪問 (22日)	・教室試行 (2回) 関係者事前打合せ、広報、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	松永先生1回 (対面) 山田先生1回 (オンライン) 御館先生1回 (オンライン)
令和5年 10月	・久保泉 教室試行② (1日) ・春日 教室試行② (1日) ・コーディネーター会議 (16日) ・久保泉 教室試行③ (28日)	・教室試行 (3回) 事前打合せ、広報、活動備品 (和服) 準備、実施後評価、アドバイザーへ報告 (メール) ・外部講師と活動精査・計画 (20日)	
令和5年 11月	・実施団体情報交換会 (欠席) ・コーディネーター会議 (9日) ・久保泉 教室試行④ (18日) ・アドバイザー会議 (21日) ・コーディネーター会議 (28日)	・教室試行 (1回) 活動備品 (和服) の準備、当日スケジュール作成、広報、実施後の評価等	松永先生1回 (オンライン) 山田先生1回 (オンライン) 御館先生1回 (オンライン)
令和5年 12月	・コーディネーター会議 (4日) ・コーディネーター情報交換会 準備打合せ (7日) ・春日 教室試行③ (10日) ・久保泉 教室試行⑤ (10日) ・コーディネーター会議 (18日) ・コーディネーター情報交換会 (19日)	・教室試行 (2回) 広報、教材調達・確認、報告書作成、アドバイザーへ報告 (メール) ・コーディネーター情報交換会 発表資料作成	
令和6年 1月	・久保泉 教室試行⑥ (14日) ・県国際課と次年度事業打合せ (16日) ・コーディネーター会議 (18日) ・コーディネーター会議 (19日) ・アドバイザー会議 (23日) ・春日 教室試行④ (28日)	・教室試行 (2回) 事前打合せ、広報、教材確認、実施後の評価、アドバイザーへ報告	松永先生1回 (オンライン) 山田先生1回 (オンライン) 御館先生1回 (オンライン)
令和6年 2月	・コーディネーター会議 (7日) ・久保泉 教室試行⑦ (17日)	・教室試行 (1回) 教材確認、実施後の評価、アドバイザーへ報告 (メール) ・県「やさしい日本語」研修発表	

令和 6 年 3 月	・コーディネーター会議（4 日） ・事業報告書提出（11 日）	・活動の反省、課題の確認 次年度に向けた活動の提案等	
---------------	------------------------------------	-------------------------------	--

（２）立ち上げた日本語教室の詳細

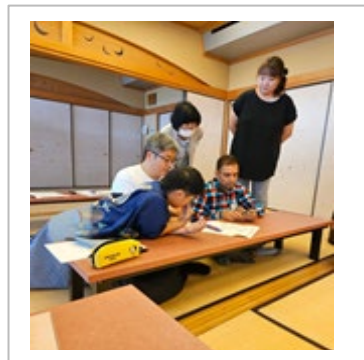
教室の名称	① はなすくらす みんなのにほんごきょうしつ かすが ② はなすくらす みんなのにほんごきょうしつ くばいずみ						
外国人参加者について	[国籍] 春日：ベトナム3人、フィリピン2人、ネパール2人、インドネシア2人、ミャンマー1人 計10人 久保泉：ベトナム12人、インドネシア4人 計16人 [属性] 技能実習生、特定技能、介護の在留資格者が主な対象						
参加者数 (内 外国人数)	受講者 64名(外国人 延べ人数) 支援者 25名(日本人 延べ人数) (うち、日本語指導者 1名、外国人サポーター 2名)						
開催時間数	総時間 22時間			内訳 2時間×11回			
目標	参加者同士がそれぞれ目標を持ち、その目標を達成しながら、日本語で交流し、「顔が見える関係」を構築する。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2023年 9月3日(日) 10:00～12:00	2	春日 公民館	3	話したいこと、 聞きたいこと	・自己紹介カード作成 ・インタビュー ・フリートーク	サポーター4人
2	2023年 9月9日(土) 14:00～16:00	2	久保泉 公民館	7	自己紹介、 挨拶、 スポーツ	・自己紹介カード作成 ・スポーツの言葉 ・町民スポーツ大会の競技 を伝える・理解する (実技：3人4脚、玉入れ)	日本語指導者 1人 サポーター2人
3	2023年 10月1日(日) 10:00～12:00	2	春日 公民館	3	民族衣装	・衣装や服に関する言葉 ・自国の衣装説明 ・日本の着物体験	サポーター4人、
4	2023年 10月1日(日) 10:00～12:00	2	久保泉 公民館	9	趣味、 得意なこと	・自己紹介カード作成 ・趣味に関する言葉 ・参加者同士インタビュー ・(小学校の運動会見学) ・ビンゴゲーム	日本人指導者 1人、サポーター4人、
5	2023年10月 28日(土) 13:30～15:30	2	久保泉 公民館	3	筆で文字を書いてみよう！	・漢字を学ぶ ・書道体験	日本人指導者 1人、サポーター1人
6	2023年11月 18日(土) 14:00～16:00	2	久保泉 公民館	12	私達の服 (民族衣装)	・衣装や服に関する言葉 ・自国の衣装説明 ・日本の着物体験	サポーター2人
7	2023年12月 10日(日) 10:00～12:00	2	春日 公民館	0	日本のお正月に 親しもう	・お正月に関する言葉 ・年賀状を知る・書く ・正月飾りの作成	サポーター3人
8	2023年12月 10日(日) 14:00～16:00	2	久保泉 公民館	11	私たちのまち	・地図を見ながら地域の名勝旧跡の説明を聞く。 ・聞いた場所を記録する。	サポーター1人

9	2024 年 1 月 14 日(日) 14:00～16:00	2	久保泉 公民館	6	みんなの国のお 正月、バス旅行 の計画	・お正月に関する言葉 ・自国の正月の紹介 ・バス無料の日を利用して 旅行の計画を立てる。	サポーター3 人
10	2024 年 1 月 28 日(日) 14:00～16:00	2	春日 公民館	6	節分、豆まき	・自己紹介 ・節分、豆まきの言葉 ・豆まき（実演） ・自国の文化紹介・発表	サポーター4 人
11	2024 年 2 月 17 日(土) 10:00～12:00	2	久保泉 公民館	4	食べ物 料理の日本語	・料理の言葉 ・和食の作り方を知る。 ・自国の料理の説明・発表	サポーター3 人

【主な活動】



2023 年 9 月 9 日 久保泉
3 人 4 脚を学び、実技



2023 年 10 月 1 日 春日
自国の衣装を説明する



2024 年 1 月 14 日 久保泉
バス旅行の計画を立てる

教室の立ち上げ に係る問題とそ の対応策	「日本語教室」と聞くと、どうしても外国人が参加対象と思われる傾向があるため、県の地域日本語教室のロゴマーク・考え方「はなすくらす」をそのまま活用し、できるだけ日本人でも外国人でも参加できる場というイメージ作りに努めた。
----------------------------	---

（3）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語教育意見交換会 (事業外で実施)	令和 5 年 7 月 11 日 (火) 15 : 00～16 : 00	市内の日本語教室主宰者から、前年度実施した「外国人に日本語を教えてみませんか」受講者の教室受入れ・活動等、現状を聞き、久保泉・春日校区の教室活動への参考とした。 【出席者】市内日本語教室主宰者 (6 団体)、佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県日本語学習支援カスタネット、佐賀県国際課
令和 5 年度日本語学習 支援者養成講座 (入門編) 「外国人に日本語をおし えてみませんか」 (事業外で実施)	令和 5 年 ①10 月 8 日 (日) ②10 月 15 日 (日) ③11 月 5 日 (日) ④11 月 26 日 (日) ⑤12 月 3 日 (日) (5 回) 10 : 00～12 : 00	対象 : 学習支援に興味がある市民 50 人 内容 : 多文化共生、外国語としての日本語、実際に教えて いる方々との交流 ①多文化共生、やさしい日本語 (講師 : 県国際課) ②外国語としての日本語① (講師 : 日本語教師) ③外国語としての日本語② (〃) ④外国語としての日本語③ (〃) ⑤関係団体の紹介、交流 (進行 : 県日本語コーディネーター、県国際交流協会職員)
「第 11 回春日の郷 ふれあい祭り」 多文化共生パネル展 (春日公民館) (事業外で実施)	令和 5 年 11 月 3 日 (金) ～20 日 (日)	①春日の在住外国人数・国籍等 (1 枚) ②9、10 月の春日日本語教室の取組み (1 枚) ③県国際交流協会が作成した「やさしい日本語」 啓発パネル (6 枚) を掲示し、来館者へ広報を行った。

久保泉町民文化祭 (久保泉公民館) (事業外で実施)	令和5年 11月3日(金) ～5日(日)	10月28日の書道作品を掲示し、久保泉の日本語教室の取組みを紹介した。
「インドネシア・ハラル料理を知ろう！」 (事業外で実施)	令和6年 2月19日(月) 9:00～12:00	主催：久保泉社会人権・同和教育推進協議会 久保泉公民館、市国際交流協会 市国際課 対象：久保泉校区 食生活改善推進協議会員 12人 目的：料理の説明や実習を通じて、文化・宗教を背景とした食制限を理解し、お互いの文化や人権を尊重する。 講師：久保泉在住のインドネシア籍住民3名 講師3名は2月17日の日本語教室等で、事前に料理について日本語を学び、講師活動に活かした。

【主な活動】



令和5年10月15日(日)
外国語としての日本語①



令和5年11月3日(金)
春日公民館 多文化共生パネル展
久保泉公民館 書道作品の掲示



令和6年2月19日(日)
インドネシア・ハラル料理を知ろう！

5. 今年度事業全体について

進捗状況	事業計画に基づき、関係者の打合せを重ね、2カ所で日本語教室試行を計11回行った。教室設置の原点となる「交流の場」としては、地域住民へ教室活動の周知、参加への促しが足りず、実現が予定より遅れている。
事業推進にあたり 問題点と対応策	問題点①「地域のリソース」を教室活動にうまく取り入れられていない。 →活動日や内容について、地域のキーパーソン等へも相談し、様々な視点で教室活動を継続する。 問題点②日本語教室を「日本語を学ぶ」場に加え、「参加者同士の交流」の場にする時、参加者「個人の目的」に寄り添った内容の整備が難しい。 →1対1のワークや活動後のアンケート等で、こまめにニーズを把握し、内容に入れる。
成果	久保泉・春日の2カ所で日本語教室の試行をアドバイザーの助言をうけながら、コーディネーターを中心に計画的に行った。
地域の関係者との 連携による効果	教室試行について ・久保泉・春日公民館：会場の確保、広報の支援、活動へのアドバイス、文化体験の講師や地域のキーパーソンの紹介 ・技能実習、特定技能の外国人受入事業所：所属の外国人への教室予定の連絡 ・地域の民生委員の方：地域の在住外国人への教室参加の呼びかけ ・地域のスポーツ協会：スポーツ大会の備品貸与 を配慮いただき、計画的に実施することができた。
コーディネーターの 主な活動	①ニーズの調査(10時間) ②人材育成のための調整(10時間) ③日本語教室開設及び運営のための調整(打合せ、広報を含む)(225時間) ④教材作成に向けた調整(22時間)

	⑤地域住民への意識啓発（5 時間） （※各項目について、時間数はコーディネーター6 名分の合計）
アドバイザーの 主な助言	・今年度は後期から教室活動が月 1 回のペースで始動し、継続的に活動がなされている点がまず、評価されます。教室を立ち上げるまでが、いずれの地域でも苦勞している点ですが、本事業では、継続的な活動を見据えて、最初から無理をしない形で立ち上げられており、その点が良いと思いました。 また、教室活動では、既存の教材を活用するという点、キーパーソンを軸にその国のつながりを展開するといった、これまでのふりかえりが生かされている点が良いと思いました。 ・地域の特性を十分に考慮した上で着々と事業を推進してきています。最終年度は 1) 事業全体の最終ゴールを明確に言語化し関係者と共有すること、 2) キーパーソンとの協力関係を密にすること、 3) 教室でことばを教えるのか、それとも交流の場と位置付けるのかの適切な割合を検討すること の3点を意識すると良いでしょう。これらを強く意識することで事業終了後の自走へ向けた基盤構築できると考えます。 ・一年目に築いた各地域との関係を基に、地域のニーズに応じた地域密着型の教室を開設し、定期的に実施できた点が評価できます。また、県で養成したコーディネーター人材に、活動に参画してもらえようになった点も、人材確保・活用の点での成果だと思っています。次年度は、地域住民の参加を増やしていき、より地域に根差した活動にすること、本事業終了後の自走を見据えて、持続可能な運営方法や活動内容を協議することが必要になると思います。
今後の課題	・参加者の定着 →地域の実状を踏まえ「また来たくなる仕掛け・理由」を示し、関係者と共有、活動する。 →久保泉・春日在住者の広報に対する反応が薄い場合、エリアを広げて呼びかけを試みる。 ・運営予算の確保 →活動の効果をもって予算を確保する。 活動内容によっては、共催等で外部リソースを取り入れる。
今後の予定	・定期的な日本語教室の実施 計画的に日本語教室を実施し、日本語教室活動を継続する。 （2 教室について実施目標：月 2 回 総計 年間 4 0 回） ・地域イベントへの参加促進 在住外国人が参加しやすい環境・準備を教室活動で支援し、地域住民と協力しながらイベント等行事への参加を促すことで、日本語能力の向上を図る。 ・日本語教室の安定運営を目指した連携 市職員の定期異動が活動へ影響なきよう、地域関係者を含め役割分担を明確にする。